

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第 64 号 / 2012 年 9 月 18 日発行

編集 / 医学研究科長

### 『僕の大学院（修業）時代』

大学院医学研究科 科長  
医化学講座 野口 正人 教授

大学院医学研究科長も 3 期 6 年目になる。今年度いっぱいでお役ご免でもあり、本ニュースレターにも、したり顔の文章を何度か寄稿しているので、最後となる今回は昔話をする。およそ 35 年前(30 歳前後)の修業時代のことをありのままに書こうと思う。

私は昭和 49 年 3 月、東北大医卒で、記憶ではその 3 月に国試があり、国試の翌日から博士課程の院生として東北大医学部医化学講座で試験管を振りはじめた。当時の国試はムントがあり、とてもトンチンカンな答えをしてしまった私は内心国試の結果を恐れていた。

大腸が膨満した写真を見せられて、よく考えればイレウスとすぐわかるのに、「腸が張っています」「それで」「何らかの理由で大腸の一部が詰まっていると思います」「それで」「詰まりの原因はつまり、腸の内容物、腸自体、血管に起因する場合は考えられて・・・」「君は何を専攻するの」「生化学です」「もうよろしい」(結果的には合格していた)

私が入った研究室では、ヘム代謝に関する酵素の研究をしていた。私は関連する酵素を精製して、その性質を調べることになった。当該酵素は動物の脾臓に高度に発現していることが知られていたが、ラットのような小動物の脾臓では間に合わない。そこで仙台市営の屠殺場に 2 週に一度ブタ脾臓 40 頭分をもらいに行った。脾臓は売りものにならないそうで、年一度一升瓶を持って行くだけでいくらでもくれた。研究室

に脾臓を持ち帰り、大きめの家庭用ミキサーで 20%ホモジェネイトにし、800×g、10,000×g、100,000×g で振り、100,000×g 沈殿はマイクロソーム画分、その上清は細胞可溶画分としてとりあえず保存する。前者からヘムオキシゲナーゼ、後者からビリベルジン還元酵素を精製した。種々のカラムクロマトグラフィーを組み合わせ、両酵素をそれぞれ 1 週間から 10 日をかけて精製する。ブタ脾臓 40 頭から、数 mg の精製標品が得られた。酵素の性質を調べ始めると 2 週間で使い切ってしまう。再び屠殺場からのサイクルが始まる。これを 4 年間繰り返した。私の現教室員は、遺伝子工学的操作により、これらの酵素を数日の間に 100mg 単位で調製している。

私の教授は、10 時頃出てきて、まず教室員に朝駆けをかける。12 時には昼駆け、夕方 6 時には夜討ちである。その度に何らかの成果を話さないと機嫌が悪くなる。夜討ちのとき、面白いデータなどを話したら大変である。「野口君、明日の朝までにこれこれの実験結果が見たいな」。ともかく午前 2～3 時までにデータらしきものを出して、居残っている院生仲間と牛タンとビールを飲みに行く。真冬の仙台は殊の外寒い。これを 4 年間繰り返した。もし自分が教授になったら、夜討ち朝駆けの類は一切しないと決めた。

当時結婚していて、私の小遣いは月 2 万だった。大学生協食堂の最低の昼定食が 90 円、ハイライ

トが75円の時代だったが、さすがに飲み代は出なかった。妻に小遣いの値上げを再三要求したが、悉くはねつけられた。病院当直などのわずかなバイト料が飲み代だった。妻への仕返しのため、物心がついてしゃべり始めた2歳の娘に、「大学の食堂は生協大飯店と云うんだよ」と教え込んだ。娘はずっと信じ込んでおり、高校生になったとき、「大学の食堂は生協大飯店で云うんだって」と言って、大恥をかいた。

私には、ヘム酵素など一般の金属酵素を物理化学的観点から理解したいという、野心があった。そのためには電子スピン共鳴を理解しなければならない。そのためには、

数学、物理、化学をマスターした上で、量子力学と量子化学を勉強する必要がある。週末は4年間、量子力学漬けになった。この努力の甲斐があって、米国の留学先は私の思いどおりになった。HoustonのRice Universityという古い大学で2年間好きな研究と学問に没頭した。2年間では電子スピン共鳴はマスターできない。しかし、2年後に帰国したときには、金属酵素研究者としてやって行けそうな自信がついていた。

## 特集

# 第22回医学教育ワークショップ開催！！

「大学院の理念・目的に沿った教育目標の策定」をテーマに活発な討論！

第22回医学教育ワークショップは佐賀県唐津市の唐津ロイヤルホテルを会場に、平成24年8月2日(木)～4日(土)にかけて実施された。今回のワークショップには全体で延べ65名の方が参加されこのうち大学院部会には教員15名、大学院学生4名の方々が参加された。教員はもちろん、教育を受けている側の大学院生の方々のご参加により、日頃の大学院に関する問題点について貴重なご意見、提言を頂いたことに感謝申し上げたい。また、今回も共催をご快諾頂いた神田実行委員長はじめ委員の方々に改めて御礼申し上げます。

さて、今回の医学教育ワークショップで大学院教育に関する討議は4回目になる。これまでの3回の討議では、本研究科の改革の取り組みと、その改革が文部科学省の施策に合致したのかどうかを検証し、個々の改革策の問題点とその解決策を検討して来た。今回は、大学専門自己点検・評価委員会から本研究科においての教育目標を明示するよう求められたことを受け、大学院の理念・目的に沿った教育目標を策定することを目的に掲げた。また、教育目標を策定する段階で、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについても検証することとした。

教育目標の策定に当たり、実際に大学院教育に携わっている先生方や教育を受けている側の大学院生も討議に参加していることから、大学

院修士課程あるいは博士課程の卒業時にどのような人になってもらいたいのか、あるいは、どのような人になりたいかを以下のとおりに書き出し、そこから現在求められている教育目標を策定することとした。

(修士課程修了時)

- ・専門分野の知識持っている
- ・実践力(得たスキルが実践に耐えうるもの、仕事に使えるもの)

(博士課程修了時)

- ・オリジナルな研究デザインで研究の実践ができる
- ・研究指導ができる
- ・研究費が獲得できる

次に、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの検証だが、現在のポリシーは、文章量が多く、なかなか読む気になれないという意見で一致した。しかしただポリシーを短くするのではなく、久留米大学らしさや、久留米大学のメリットをアピールする場として利用した方が良いという意見が多く、そのためにはどのようなポリシーにすれば良いかを討議した。

他には、専門看護師教育課程は、5年前後が必要取得単位数を現在の26単位から38単位に増やさなければならない状況であり、単位増加分については、フィジカルアセスメント(診察診断学)、病態生理、臨床薬理の講義及び演習に

なる予定であり、今後具体的な内容の揭示が必要となってくるが、大筋で医学科の協力について同意を頂いた。また、入学試験の英語試験をTOEICで一定の点数(具体的な点数は示せなかったが、最低高校卒業以上の英語の能力は備えて欲しい)を取得している者に対しては免除することや、秋入学制度(9月入学)を導入することで、入学志願者の増加や卒業時に海外への留学をし易くなるなど幅広い人材を集めることにつながるのではないかという意見が出た。

最後に、今回は教育目標を策定ということで

目的と目標がはっきりしていたため、成果は目に見える形で容易に出ると思っていたが、修士課程および博士課程の2課程とそこに含まれる学群の特殊性を考えて目標設定もそれぞれ考えなければならないために、策定に手間取り、又、ポリシーの検証に関しても人に分かり易く、読み易く、本研究科をアピールできる文章での策定ができず、今後の懸案事項になった。しかし、この3日間で話し合ったことはFD活動に大いに役立ち、今後につながる議論ができたことは間違いない。



## 事務通信

### ◆修士・博士課程の皆様へ◆

## 研究題目及び学位論文提出予定の確認調査実施について

修士課程第2学年、博士課程第4学年学生の皆様を対象に、研究題目及び学位論文提出予定の確認調査を実施しております。調査書類に必要事項を記入の上、10月9日(火)までに、必ず医学部事務部教務課まで御返送下さい。

併せて学位論文の申請・審査手続通知についてもご確認ください。

(学位論文のお問い合わせ先：医学部事務部庶務課担当：中村 内線 3014)

## 平成24年度 大学院セミナーシリーズ特別講義 後期日程のお知らせ

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
眼科学	9月20日(木) 16:00~17:30	教育1号館5階 1501教室	理化学研究所 発生・再生科学 総合研究センター 網膜再生医療研究開発プロジ ェクトリーダー 高橋 政代 先生	iPS細胞の臨床応 用にむけて
バイオ統計センター	9月20日(木) 17:40~19:10	教育1号館5階 1501教室	京都大学大学院医学研究科 子どもの健康と環境に関する全国調 査京都ユニットセンター・特定准教授 佐藤 恵子 先生	臨床研究に必要な 条件を考える

担当講座	講義日時	会 場	講 演 者	講義テーマ
皮膚科学	10月4日(木) 15:30~17:00	臨床研究棟2階カンファレンスルーム	藤田保健衛生大学医学部病理学・教授 堤 寛 先生	皮膚感染症の病理
病理学	10月16日(火) 18:00~19:30	基礎1号館2階会議室	九州大学大学院医学研究院形態機能病理学・教授 小田 義直 先生	軟部肉腫の分子基盤と診断・治療への応用
解剖学 (肉眼・臨床解剖部門)	10月18日(木) 18:30~20:00	教育1号館5階1501教室	産業医科大学医学部第2解剖学講座・准教授 森本 景之 先生	タンパク質相互作用の可視化
分子生命科学研究所 (遺伝情報)	11月9日(金) 17:00~18:30	基礎2号館1階セミナー室	順天堂大学医学部・教授 横溝 岳彦 先生	生体活性脂質研究の醍醐味
先端癌治療研究センター (肝臓部門)	11月30日(金) 17:30~19:00	基礎2号館1階セミナー室	東海大学医学部基盤診療学系公衆衛生学・教授 稲垣 豊 先生	マトリックスの合成と分解から見た臓器線維症の治療戦略(仮)

日時・場所等に変更がある場合には、大学院医学研究科ホームページでお知らせします。また、5回以上のセミナー出席およびレポート提出により単位認定を行っております。当該科目履修登録者は各セミナー出席の上、1週間以内に医学部事務部教務課までレポートをご提出下さい。  
その他、多数のご参加をお待ちしております。

### ◆博士課程の皆様へ◆



## 平成24年度博士課程共通科目後期講義計画 及びレポート提出について



共通科目を履修された方には既に通知しておりますが、今一度講義計画及びレポートの提出期限についてご確認の上、所定の期日までにご提出ください。なお、講義の変更等ある場合には、大学院ホームページ学生掲示板にてお知らせしますので、そちらもご覧いただくようお願い致します。

### ●講義計画(後期日程) & レポート提出

実施時期	科目名	科目担当責任者	場 所	講義日程/レポート
後期	臨床研究主任研究者養成ユニット	山田 亮教授 (先端癌治療研究センター)	教育1号館1501教室	時間割：水曜6限 18:00~19:30 日程：9月12・26日、10月3・10・17・24・31日 11月7・14・21・28日、 12月5日講義実施。 レポート：第1回講義時に指示

実施時期	科目名	科目担当責任者	場所	講義日程/レポート
後期	臨床・基礎研究と生命倫理 (コンサルテーション)	嘉村敏治教授 (産婦人科学)	教育1号館 1501教室	時間割：木曜6限 18:00~19:30 日程：11月1・8・15・22日講義実施。 レポート：課題3題 古賀教授：7/31(火) 締切 小児科医局(溝田)宛提出 嘉村教授：11/30(金) 締切 教務課窓口へ提出 福重教授：1/31(木) 締切 緩和ケアセンター福重教授宛提出
後期	科学的根拠に基づく医療 (EBM)	鳥村拓司教授 (先端癌治療研究センター)		レポートのみ：「EBMの功罪について」 2/1(金) 締切 教務課窓口へ提出
秋期集中	研究者養成リテラシー	野口正人教授 (医化学)	教育1号館 1414教室	日程：11月5~8・16日。 レポート：「ワイコフ先生に対する感想文(A4 1枚) ※講義時に指示有
後期	プロテオーム／ペプチド解析	東元祐一郎准教授 (化学)	教育1号館 1501教室	時間割：火曜6限 18:00~19:30 日程：12月18、1月8・15・22日講義実施。 レポート：2/15(金) 締切 教務課窓口へ提出

## 平成25年度入学試験 要項決定！！

平成25年度大学院医学研究科入学試験の要項が、下記の通り決定しましたのでお知らせ致します。

### 【試験日程】

修士・博士ともに同一

#### \*前期試験

出願受付期間：平成24年9月18日(火)～平成24年9月28日(金)

試験期日：平成24年10月16日(火)

合格発表：平成24年11月16日(金) 午前10時

#### \*後期試験

出願受付期間：平成25年1月15日(火)～平成25年1月25日(金)

試験期日：平成25年2月19日(火)

合格発表：平成25年3月15日(金) 午前10時

※他に、出願資格審査申請受付期間を設定しているものにご注意下さい。

### 【試験内容】

#### \*修士課程

《基礎医学群・社会医学群・分子生命科学群・臨床看護学群》

英語・小論文・面接

《バイオ統計学群》

英語・面接

#### \*博士課程

英語・面接

出願資格審査、出願方法等詳細につきましては、平成25年度各課程募集要項もしくは本学大学院医学研究科ホームページにてご確認下さい。科目等履修生も同時募集中です。そちらも詳細は募集要項、ホームページをご覧下さい。



## 編集後記

今月からいよいよ、平成25年度学生募集が本格的にスタートします。本学大学院教育をより多くの方々に周知・ご理解いただき、多くの入学希望者に恵まれるよう、努めて参りたいと思います。初秋とはいえ、厳しい暑さが続いています。皆様くれぐれもお体ご自愛下さいますようお願い申し上げます。(長)

